

脳を知る

□■469



小倉光博副院長

このコーナーでは、読者からのご意見、関心のあるテーマを募集しています。〒640-8154 和歌山市六番丁43（ビネス六番ビル）産経新聞和歌山支局（FAX 073・435・3018）までお寄せください。

として、脳の領域でまず思い浮かぶのは慢性硬膜下血腫です。脳は頭蓋骨の中にありますが、その頭蓋骨の内側の

膜を硬膜といいます。硬膜の下、すなわち硬膜と脳の間隙に血がたまわり、徐々に脳を圧迫する病気を慢性硬

膜下血腫といいます。

脳に隙間の多い高齢者は、軽い頭部打撲でも出血しやすい、受傷時にはわからないような少量の出血が1〜2カ月かけて徐々に増えてくるのがこの病気の特徴です。血の量がある程度以上になり脳を強く圧迫すると、頭痛、歩行障害、片麻痺などが起こり、さらに増える意識障害、放置すると命にかかわることもあります。3年もの長期経過ではありませんが、後で悪くなることの比喩と考えれば納得できます。

自然に血腫が減ることもありますが、症状があれば早いうちに手術をしたほうが良いでしょう。手術では局所麻酔で頭皮を小さく切開して頭蓋骨に小さな穴をあけ、細い管を入れて硬膜の下にたまっていく血を吸い取ります。この病気では脳そのものに損傷はないので、このような小さな手術で血をこれば完全に治ります。

高齢者が転倒をきっかけに発症し、後から症状がでて、放置すれば死につながる。当時は原因不明で、なにか呪いのように思われていたのかもしれない。慢性硬膜下血腫、三年坂の名前の由来とともに覚えておいてください。

（済生会和歌山病院副院長 小倉光博）
脳神経外科部長 小倉光博



「三年坂」名前の由来は慢性硬膜下血腫？

江戸時代の三年坂は今よりも狭くて急な坂道だったようです。当時、「この所にて転びしものは、三年の内に必ず死ぬ」との俗言があったそうです。とても怖い話ですが、暗くて急な坂なので転ばないように気をつけようというところだったのでしょう（『城下町の風景』ニユース和歌山）。さて、これは俗言としても、転んだら三年以内に死ぬ、とはどんな病気が考えられるのでしょうか？

転倒がきっかけとなり発症する病気が